# 三池主婦会

※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　川畑信子

# 童心で綴る慰問文
## 雪国のよい子たちから

組合本部にはぞくぞくと激励の手紙とか、団結慰問袋が届けられているが、その中に教組の仲間が届けてくれた団結慰問袋の一つに「福島県郡山市立芳賀小学校」の児童たちが書きつづった手紙十数通と、自分たちの手でつくりだした金とが同封されてあった。児童たちは炭鉱のともだちとの手紙のやりとりも希望しているので、何とか幼い希望がかなえられるように、私たちでこのまごころこもった手紙のお礼をしてやらなければならない。以下は十数通の手紙の中から転載したものの一部である。

六の四　町田哲雄

年の瀬もおしせまつてまいりました。

僕はクラスを代表しておじ様にお手紙をさし上げます。

この間、僕達のクラスで児童会を開き炭鉱地小学校の皆さんに何かおなぐさめのプレゼントをしようときめました。そして父母の力をかりずに一人一人の体験を通してお金を生み出すことにしましたいくつものグループに分かれてあきかん、古新聞か古雑誌、ぼろなどを集め、それを古物屋に持つていつて一五八七円と言う、わずかではありますがお金を得ましたそれを、炭鉱の闘争で生活にこまつておられるおともだちにさしあげたいと思うのです。そしてお手紙を一人一人にさしあげて、あく手してはげましてあげたいのですけれども学校の名前も場所もわかりません。

それでおじ様のお力をかりて、僕達のお友達にさしあげていただきたいと思いますが、クラスを代表してどうぞよろしくお願いいたします。

六の四　歌川稔

大変寒くなつて来ました。炭鉱地小学生の皆様お元気ですか。近頃の新聞やラジオで、炭鉱地が不景気で大変苦しんでいるということを知り、本当にお気の毒に思つております。先生からもいろいろお話を聞いて、僕は涙が出そうになりました。僕達のお友だちが、社会じようせいとはいえ、小さな胸をいためているということは、ぼくたちにはたえられないことです。僕達は児童会でいろいろなことを話し合い、少しばかりのお金を作りました。学用品でも買つて下さい。そして新しい希望を持つてお正月をむかえて下さい。僕達の住む郡山は、十二月初雪がふりました。でもほんの少しです。大牟田はどうでしょう。これからは寒さがきびしくなりますから、かぜなど引かぬように注意して元気で勉強して下さい。

ではくれぐれもお身をお大切にして下さい。

六の四　池上文雄

炭鉱地区小学校のみなさんお元気ですか。僕たちも元気です。こちらの東北は十二月になつてめつきり寒くなり、今日はゆきがふつております。

皆さん達は小さいのに、それぞれのたたかいで大へんですね。僕達は映画教室であんちゃんの映画を見ました。あの少年のたくましい生きぬく力に感心いたしました。皆さん達は小さい時から、この大きな経験をしているのだからきつと力強いことをきずく人になると思います。どうかへこたれないでがんばつて下さい。僕たちは児童会で話し合い古本・新聞・あきかん・びんなどを集めて売ることにしました。少しですがこのお金でノート・本などを買い、苦しみに負けずしつかり勉強して下さい。

十二月十五日

六の四　佐藤昌司

炭鉱地小学校のみなさんお元気ですか。

今の炭鉱はふけいきでこまつているそうですね。こんなことでまけてはなりません。

僕達はみなさんたちといつも強く正しく生きていかなければなりません。

## 川柳
### 闘争（寄稿）

三川支部　宮崎天馬

首切りへよし頑張るぞ子の寝顔
方言が飛び出す団交行き詰り
労仂歌覚える早さも社宅の子
しやんとする議場風雲急を告げ
光から新生バットスト続く
退職の手引空から派手に降り
団結の餅をつく手が多過ぎる

## 年頭所感
# 宇宙時代と女性

石垣綾子

ソ連ではじめて月世界にロケットが打上げられ、また月の裏側がはじめて観測され、宇宙の神秘が次々に引きはがされた。まさに今年、一九六〇年は宇宙の時代と言えよう。

しかし、地上に目を落せば、日本は台風の脅威にさらされ、政治的な貧困からその被害が大きく、このめでたい新年にも、伊勢湾台風のあと今だに寒さにふるえている人々も多いだろう。

ソ連のコロスコフという気象学者は、人工的に気候を調節する方法を考え、それが成功すれば日本に台風をこさせないことも出来ると言われている。科学が人々の平和と幸福のために利用されれば、どれ程地球が明るくなることか。

さて、そこに住む人間たち、なかでも人口の半分をしめる女性はどう生きているだろうか。日本の女性の地位は、戦後急速に変り、その中から少しずつ、自分の目、自分の心でものを見、考える人たちが現われ、その発言力も大きくなつた。社会や政治にのり出す女性も数を増し、家にばかりとじこもつていた過去の女性の目も、次第に外に向けられるようになつた日本の運命を再び左右する「安保条約改定」に全国の母親たちが力強く立ち上つた、昨年の第五回母親大会は、非常に活気づいたものだつた。

しかし、全体からすれば、これらはほんの一部の主婦。一部の女性に過ぎず、大方は相変らず政治や社会の変動に無関心で、身をやつしたり、おしやべりをしたり、家事や子供の世話にかけかまけている現状である。また芸術や文学の方面には相当に群しいのに、世界の政治的な動きにはうとい女性の多いのに、時々びつくりさせられる。

地球が科学の進歩とともに狭くなり、凡ての問題を話し合いで解決せねばならなくなつた。国際問題としては安保条約改定、国内では、政党内の激しい変動は注意して追わねばならぬ重要な問題である。選挙してしまえばそれでよいのではなく、自分たちの選挙した人のことは、後々までも注意して見守るのが国民としての義務でもあると思う。教育界では、思想の弾圧と統制の空気が流れ出し、逆もどりの危険にさらされている。時代錯誤のロッキード戦闘機購入それにつれて、軍備費の膨張が私たちの生活にどんな影響を及ぼすか。サイドワインダーは知らない間に持ち込まれた。あげればきりがないほど今日では真剣に考えねばならぬ緊急の問題ばかりである。

一九六〇年という年は、そうゆう意味で歴史の曲り角に当つていると思う。女性は眠つていてはいけない。目を覚し、自分のこうと思う正しい方向へ力強く歩み出さなければいけない。

来る六月にはアイゼンハワー米大統領がソ連を訪れ、軍縮会議を開くはずである。一九六〇年の年頭に当つて、私はその日を大いに期待し、真の平和が訪れることを願つて止まない次第である。

（いしがき・あやこさんは評論家）

# 手を握り合つて

主婦会会長　南場キヨノ

団結おめでとうございます。昨年はお互に団結して健闘しました新しい年を迎えるにあたり、あらためてみんなが手を握り合つてクビ切り合理化と安保改定の粉砕のため闘いぬくことを誓い合いましよう。

闘いは長期になるでしよう。今年こそ一万円の生活の苦しさが出てくるものと思います。

〃やりましよう〃〃頑張りましよう〃と、口先では簡単にいえますが、実際はなかなか困難なものです。

だが、私たちは闘わなければ、何時までたつても幸せはやつて来ません。闘つてこそ平和と幸福をつかむことができるのです。

私たちが一番心配するのは、拒否者と残つた人との間に生ずるわだかまりです。それをなくすために、みんなが暖かい気持ちで拒否者を抱擁し、身にふりかかる火の粉をはらいのけねばなりません。

主婦会は結成以来七年目を迎え年毎に成長してきましたが、まだまだ学習の面でも、教養の面でも学ばなければならない点がたくさんあります。もつと大きく視野をひろげる必要があります。

女性にありがちな、他人のことをとやかくいうことをつつしみ、感情のもつれにとらわれず一本になつて、闘い抜かねばならないと思います。

私たちはこんどの闘争で、総評傘下各組合からたくさんのカンパを頂きました。十円のお金でも人から頂くことは恐縮ですし、またくれる人もない社会です。全国の仲間からカンパが集つていることは、三池の闘いが安保改定阻止の闘いとむすびついて、全その労働者の闘いになつたからです。

一きれの餅を頂くときに仲間の友情をかみしめて、勝利の日まで闘いぬく決意をあらたにしましよう。

なあと、いつも涙ぐみます。

みなさん達も、お家のお手伝いや兄弟のおせわで、小さなお母さんの役をしていらつしやるのね。みなさん達の小さな力は、きつと大きなものを動かしてくれるわ。がんばつて下さい。そして、希望をもつて明るく生きて下さい。

# 勝利の日まで

三川中山初美

不当にも解雇者の立入りを禁止した会社に怒りをこめて、私たちは拒否者をかこんで入門を強行した。主婦会は十六日から二十六日まで、ストを除いた七日間、三交替で激励を行つた。

朝は五時から夜は十一時まで三川坑正門と繰込場で夫たちと共に労働歌を唄い〃団結・頑張ろう〃と力強くちかい合つた。

十二月も半ばを過ぎた朝の五時六時は、相当に寒さがきびしく、夜も九時を過ぎれば靴走の風が冷たい。しかし唯の口からも「寒い」「苦しい」などとつぶやくのは聞えない。子供を背にした人も、年をとつた人も共に闘い抜く決意にもえ、毅然として、北風の吹きつける正門で主人達に拍手をおくり、入門の合間をみては労働歌を合唱しつづけた。絶え間なく会社側のマイクは解雇者の入門はまかりならぬと怒らしく放送する。守衛詰所の横には十人位の白腕章の番人が目を光らせ太々しい顔つきで、私達の挑発を待つている。腹立しさをこらえると、くやしさに涙がにじんでくる。繰込場での長い時間も私達は、拍手と労働歌の激励をおくつた。繰込場の中央部のストーブのそばでは、やはり白腕章の経営者が七、八人威張つて立つている。東京からでも派遣されたのか、平常は鉱長室にもいない経営者が毎日三交替で出てきている。何のために何をしにきたのだ！　と父腹の底から怒りがこみ上げる。解雇された人もされない人も心は一つ、こぶしを振り上げ共に頑張ろうと声を合せる。火と炭の人も、主婦たちも、口びるをかみしめ目を光らせて全国の仲間たちといつしよに闘いつづけるのだ。

勝利の日まで。

# 鉢巻をしめて

組合員　宮浦一

組織の団結！！

それが冷たい団結であつたとしたら、組織という名は一体どんなになるだろうか……と決戦場にたたずんで静かに考えてみました。

温かな思いやりと信頼感があつてこそ、組織であり、団結であると思うからです。

個々に顔形がちがつているように、また個々の思慮もちがつているでしようが、一貫していえることは総での戦には勝ち抜かねばならぬということ。それは生活の安全確保ということだと思います。

その外にもいろいろとたくさんな事があると思いますが、要するにこのことはどうしても私たち働く者みんなで固守せねばと心するはずと思います。

苛烈の既を深め、力と力の対決の期に到達した今日、しつかりと後顧に憂いなきよう、家庭を守り組織を愛し、団結を固守する、そのことが主婦の務めの一つではないだろうかと思うのです。

組織人として団結を愛する姿にこそ本当の幸福が訪れることを確信し疑いません。

働く者の妻として、そして主婦としての本当の姿がハツキリと美しくクローズ・アップされることでしよう。

その時、それから貴女への本当の幸福が訪れてくるのです。組織人ならば、組織の守りごとには素直に従つてみましよう。そして不言実行です。

ということは、組織について盲従であれということではありません。不満は、不満として……。

闘いに勝ち抜いた暁には、お互いに話し合える場所が訪れることを信じ、その日までは頑張ろうではありませんか。シツカリとスクラム組んで組織の団結を固守しつつ、来る春の日を楽しみに苦難の荒波を乗り切りましよう。

# この子らのために

港務林ハル

中央単産の各代表を駅までむかえに行くため闘争本部横広場に急いでかけた。全員北風を背に出発しようとしているとき、五年生になる長女が来て「お母さんお母さん」と通知表を抱きながら私の腕をぐいぐい引つぱる。しきりに耳もとで「あのねあのね」と口早に訴えている。今日は子供たちの二学期の終業式の日であることもクリスマスイブであることもすつかり忘れていたわたし。始めて子供にせがまれたケーキ、いつもだつたらささやかながら準備していて、通知表の努力のあとを、クリスマスイブで家族共々たのしく過してきたものを……。「ごめんなさいね」と憎らしい黒雲（会社）の一点をみつめつつ、子供に見送られてデモ隊に追いつく。

駅前広場は、十年間も別れていた肉親をむかえるように、みんな出迎えの顔でいつぱい。一時間あまりまつただろうか。

二台のニュースカーからこぼれおちそうに多くの代表団が到着しつぎつぎに激励の挨拶とあたたかい同志から集つた寄金などの報告がなされた。終つて組合本部まで赤旗をなびかせつつ、デモをつづけその後それぞれ地域で、さらに代表者をむかえた。

主人が職場から帰るが早いか、三才の長男もはだしで「お父さんお父さん今日はクリスマスよ」ととびついて行く。長男をだきあげ腰をおろしながらケーキの包みをわたした。クリスマスケーキを子供たちが注文してしまつていたのである。夕ご飯にケーキだけをそえ、七輪をかこんでささやかな語り合いで、長女、次女が「お母さん今年はおもちつくの」ときく。「今年はね、あんたたちが大きくなつたら戦争や貧乏もない、たのしい日本の国をつくるためにこうして辛抱しているのよ。勉強したりお父さんたちが働いてワツショイワツショイしているのよ」

「そんなら勝つたときは贈物もケーキもうんと買えるね」という。今年ほどクリスマスや正月が苦しいと思つたことはない。しかし子供たちの、このすなおなよろこびようにどうこたえたらいいのか？この子供のためにもこの闘いに勝ち抜かなければと固くちかつた。